

事業名: なかよろずアップ企画	こども食堂から見た地域課題	
報告日: 令和5年9月5日(火)	～こども食堂立ち上げた! 話をきいてトークしよう～	
開催日時: 令和5年8月27日(日) 14時00分～16時00分	参加費: 500円	
対象者: 市民 (広報よこはま8月号掲載)	参加者: 13名	
開催場所: なか区民活動センター 研修室 I		
講師: 満福うえのまち食堂 代表: 青木あゆみ氏		

前半 講義

満福うえのまち食堂の青木あゆみ氏をお迎えし、立ち上げから現在の食堂での活動のことや、コロナ禍の活動を通しての思いなど、地域課題について話をいただきました。

青木氏は、これまで食堂などの経験や活動を行ったことがないにもかかわらず、東日本大震災を受けて、美味しいものを口にするのは老若男女が共通することで一緒に食事をするの大切さやつながりの大切さを思い、2016年に地域食堂を立ち上げられました。

忙しい共働き家庭やひとり親家庭など、食事を作る時間より満福こども食堂に参加して親子の時間やその場にいる人たちとの繋がりや時間を過ごしてもらいたいとの思いから順調に運営活動ができていた。しかし、コロナ禍での運営の難しさとして、地域食堂のあり方のズレを感じた瞬間には、スタッフとの話し合いなど考えを共有することにより、活動を継続することができていると話してくださいました。

後半 交流会

3つに分かれてグループで話し合いました。各グループでは、教育の現場の方からの経験や思い、青少年を対象にサポートをされている方の話など話の幅が広がり、子どもたちに対して、地域に対しての考えを話し合うことができました。



◀ 青木氏

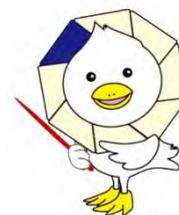


▲ グループトークの様子

参加者の感想

・ 課題が広がった時、社会の環境が変わっていく時に、どのような立ち位置で、どのような視点で対処していったか、どのようなことを大切にしているかとの具体的な話が聴けて良かった。

- ・ 活動を拓げて続けることに感動。
- ・ 講師の方の「学び」と「活動」がすばらしい。



まとめ

内容は、こども食堂の立ち上げから現在の活動までのお話でしたが、そこから見えてくる子どもの貧困とは、金銭面だけでなく、子どもが子ども時代に体験しなければならない「経験」が乏しいこともあるのだと知りました。大人である私たちができること、社会に還元できることなど、話をきいた後にグループトークを行いました。

参加者は、社会教育に興味がある方や教育の現場の方が多く、子どもたちに向けて何が必要であるかなど現場目線を交えて話し合うことができました。

今回の講演会は、興味を持ったことに対して「知る」と「学び」ができた内容でしたが、まずは、自分が住んでいるところに興味を持ち、知るべきと改めて考えさせられました。